

平成 26 年 5 月 20 日

高等教育研究開発部門は、日本及び世界の高等教育のあり方を研究しながら、鳥取大学の学士課程教育及び大学院博士前期・後期課程教育の高度化に取り組んでいます。具体的な取り組みは以下の通りです。

1. 学士課程教育及び大学院博士前期・後期課程における教員の教育研究力の向上

近年、大学教育においては、その国際的通用性が問われています。学士課程及び大学院課程において、これを実現するには、教員の資質向上が重要です。大学において、教員の資質とは、単に教育手法のみにとどまらず、研究能力や教育研究組織運営など多様な能力を含みます。高等教育研究開発部門においては、このような高等教育を巡る状況下、大学教員の資質向上の研究開発に取り組めます。

2. 学士課程教育及び大学院博士前期・後期課程における教育課程整備

大学進学者の増加や大学院重点化政策などの影響により、社会における学士課程及び大学院課程の位置づけが変化するなかで、教育課程のあり方や卒業生、修了生の資質に対する社会の期待も変化しています。また日本の高等教育においては、国際的通用性が求められており、OECD の AHERO (Assessment of Higher Education Learning Outcomes) 等国际基準への対応も求められています。高等教育研究開発部門では、このような国際的動向も鑑み、これに適応する教育課程の整備に取り組めます。

3. 学士課程教育及び大学院博士前期・後期課程における教育改善

学生の能力や志向の多様化に対応していく上で教育改善を継続的に実施していく必要があります。高等教育研究開発部門においては、教育改善につなげるための各種手法の研究開発に取り組めます。

4. 学士課程教育及び大学院博士前期・後期課程における教育プログラム

大学の機能分化が重視されつつあるなかで、教育においても大学の特色や地域性が求められています。高等教育研究開発部門においては、「地（知）の拠点事業」等、大学の特色を生かした取り組みのなかで、教育プログラムの運用に取り組めます。

5. 大学院横断教育の検討

大学院重点化政策により大学院進学者が増加し、大学院教育において、俯瞰的知見や複眼的視野の必要性が認識されつつあります。高等教育研究開発部門においては、この状況に対応するため、大学院全体を通して共通的・基盤的に必要な教育内容や展開方法を研究開発し、副専攻やその他教育プログラムの大学院横断教育を検討します。